



化学肥料と堆肥の連携プレーを

保水性・通気性を改善して、化学肥料の窒素とリン酸・石灰などとのバランスのとれた吸収を促進するという、相乗効果があります。

堆肥の窒素肥効の出方は、気温が高まる春夏作でさかんになります。またこの時期には、化学肥料は早々と吸収しつくされるので、堆肥の割合を多くするほうが後半まで肥効がつづき、生育・収量がよくなります。一方、寒くなる秋冬作では堆肥の肥効が出にくいので、吸収されやすい化学肥料を多めに施したほうが、生育・収量がよくなります。

●土壌分析を有効に活用しよう

堆肥と化学肥料の相乗効果を確実に高めていくには、JAなどの行なう土壌分析の活用が有効です。分析では土壌に残っている各養分量がわかるので、窒素の残存量と堆肥および肥料からの窒素施用量とを合わせて、施用基準量になるように加減します。また、リン酸・カリ・カルシウム・マグネシウムについても残存量を見て、たとえばカリが多ければカリ分の少ない化成肥料を使うなど、バランスのとれた施肥をこころがけることが大切です。

